

推進項目	計画(PPLAN)		行動(DO)	評価(CHECK)	改善(ACTION)
	令和2年度事業(予算額)	事業内容及び課題等	当該年度事業の現況	スポーツ推進審議委員の意見	令和3年度予算要求に向けて
(1) 誰もが楽しめる スポーツ機 会の創出	○市民体育祭実行委員会負担金(1,750千円) 前年比:50千円 減	・今年48回目を数える歴史のある大会。地区内の人口減少により、地区単位での参加が困難となってきた。 ・市民が一堂に会して交流を深める市最大のイベントである。 ・R2年度に向けて、できる限り、市民・地域が参加しやすいよう再調整を行い、開催時間帯、内容等を精査していく。	・新型コロナウイルスの影響により中止	・地区運動会で参加者を集める苦労は変わっていないので、種目の見直しを図り、地区運動会からの盛り上がりを感じられるよう期待したい。市民体育祭で上位を目指すために練習に励む地区があるので、その点は地域コミュニティとしての一体感が感じられる。 ・八幡、松山地区への参加要請を継続していくべき。 ・課題等を踏まえ、事業の対象や手法の見直しを図る必要がある。	・9月に各コミュニティ振興会(会長・事務局等)を対象に「市民体育祭の開催及び運営等に関する意識調査」を実施した(回答率:100%)。 ・内容を見直しなが継続していくとの意見が大勢で、特に小学生の減少に伴う種目の廃止・見直し(レクリエーション的な種目の導入)、大人の競技も年齢制限をなくしたり男女混合にしたりするなど制限を緩和し参加しやすいよう見直ししていくべきとの意見があった。 ・コミ振からの意見を反映した内容に変更するなど、地域の連帯感を醸成し、地域づくりに寄与する市民体育祭にしていきたい。 ・不参加であった松山地区(内郷)より、参加の意思確認あり
	○スポーツ推進委員会負担金(2,168千円) 前年比:65千円 減 ※報酬を除いた予算額 ▽酒田市体育振興会(予算なし)	・「スポーツ推進委員」は、実技指導だけではなく、地域住民と行政とのコーディネーター機能を担っており、地域スポーツにおいて欠かせない存在となっている。 ・資質向上(指導者)と活躍する人材の育成 ・地域によるスポーツ活動(ニュースポーツ)の普及 ・ニュースポーツ等の用具の更新	・改選により、前期より3名推薦者が増えた。 ※83名のうち新規スポーツ推進委員21名 ・ニュースポーツ大会を実施(10/4) ・新型コロナウイルスの影響による各地区の運動不足解消事業(スポーツ教室開催)に係る備品購入助成(1地区50,000円)	・スポーツ推進委員の位置づけと役割について、市民に広く周知していく必要がある。 ・報酬を増やすことには賛成だが、指導者の育成を強化し、地区で活躍できる場を設けてはどうか。総合型地域スポーツクラブとも連携して活動することが必要。 ・目標達成のための課題が多く、研修の充実と資質の向上を図る必要がある。	・地区・地域のスポーツ振興及びコーディネーターとしての役割を果たすべく、各種講習会への参加を支援していく。 ・競技スポーツの指導者ではなく、『特に生涯スポーツを振興する中心的役割を担う者』としての自覚・責任を持ち、各事業への積極的な参加によりスキルアップできるよう支援していく(人件費の増額要求など)。
	○総合型地域スポーツクラブへの側面的支援(予算なし)	・総合型地域スポーツクラブの公益的な活動について適切に評価し、必要な支援を行う。 ・現在9つのクラブが活動 ・R1年度に「酒田市総合型地域スポーツクラブ情報交換会」を設立。 ※会長:丸山氏(ひらた目ん玉スポーツクラブ会長) ・施設使用料に対する減免のあり方を検討	・総合型クラブへの支援制度等の情報提供をしていく。 ・助成金(toto等)の申請・確保、指導者の育成・確保、クラブ運営における研修会の開催etc	・令和元年度に設立した「情報交換会」を継続して開催できるようにお願いしたい。令和3年度から新たに「登録認証制度」が運用されるので、離脱するクラブがあるかもしれないので、生涯スポーツができる場が少なくなる。また、使用料減免については、クラブの死活問題につながる。 ・課題が山積しており、設立したものの、中身のないクラブが多く機能していない。行政の積極的なかかわりが必要。	・令和元年度に設立した「情報交換会」を継続して開催し、各クラブが抱えている課題等を解決できるよう内容の充実を図っていく。 ・施設使用料に対する減免割合の改定。 ・活動に対する助成等の情報提供。
(2) 子どもの スポーツ活 動の推進	○スポーツ少年団活動事業(3,262千円) 前年比:101千円 減	H30団員数:1,577人、加入率:33.9% R1 団員数:1517人、加入率:33.7% 【スポーツ活動の意義・効果】 ・スポーツに親しむことで、体を動かすという人間の本源的な欲求の充足を図ると共に、爽快感、達成感、他者との連帯感、精神的な充足も図り、更には、体力の向上、ストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の保持増進に大きな効果がある。 ・運動適性テスト(体力測定)の実施率を上げるための方策を検討。	・本部大会(野球・サッカー・バスケ・バレー・卓球)の5競技を実施(剣道を除く)。 ・酒田・遊佐交流大会の中止。 ・本部主催の指導者研修会を開催予定(地域におけるスポ少活動の事例発表、運動適正テストⅡの改定内容の説明等)。	・少子化だけが原因ではないと考えるので、加入率向上の手立てが必要。 ・勝利至上主義が浸透してきている中で、スポーツ少年団の本来の活動について、しっかりと見直しをしていかないと、中途半端な活動になってしまうのではないかと、10年、20年後見据えて、地域(行政・学校・各種スポーツ団体)が一丸となって取り組む必要がある。	・スポ少加入率の向上対策をスポ少本部として取り組んでいく(情報共有、募集チラシの作成等)。 ・新型コロナウイルス感染症への対策をしながら、安全で安心なスポ少活動及び大会運営ができるよう支援していく(各専門部への活動支援)。 ・引き続き、令和2年度からの新指導者制度への円滑な移行を進めていく(各単位団への補助)。
	○OB & G平田海洋クラブ活動負担金 ※スポーツ振興総務管理事業 ※補助金→負担金(56千円) 前年比:2千円 減	H30クラブ員:111人(22家族、20個人) R1クラブ員:193人(45家族、29個人) ・カヌーやヨットなどの海洋性レクリエーション活動を通じて、水辺の安全教育の普及と体力の向上などに取り組む。 ・クラブ員の確保、イベント等への参加者の確保が課題となっている。 ・会員募集、事業開催等の募集方法の検討。	・各小学校に、クラブ会員の募集チラシを配布する。 ・事業については、海洋クラブの会員のみならず、HP等でも周知する。 ・初心者向けのカヌー教室等も、HP、広報等で周知する。	・補助金→負担金となって、行政が一層かかわりを持ったことは評価できる。海洋性スポーツ(カヤック・カヌー)を広めるために、広報等だけの周知ではなく、地域の回覧板などによる事業の周知方法を改善する必要がある。	・クラブ員募集の周知方法の検討を行い、クラブ員増の取り組みを行っていく。 ・新型コロナウイルス感染症への対策をしながら、活動できるよう支援していく。
	▽「もっと遊べ酒田の子ども」運動テキストの活用 ▽酒田市体育協会 スポーツ教室の実施(予算なし)	・保育園等との連携による基本動作を体験させる運動遊びの場の充実 ・スポ少→部活動(中学校)へのきっかけづくり。	・子ども(青少年)の分野におけるスポーツの振興はスポ少事業のみ。 ・体育協会で、小学生を対象にした事業など、底辺拡大に向けた取り組み(ちびっこスポーツクラブ)を実施している。	・基本動作を遊びの中で身につけられるようなプログラムの継続が必要。そのデータの蓄積と解析が必要。 ・体育協会が実施している「ちびっこスポーツクラブ」の継続。スポーツ推進委員の協力と活用を。	・新規事業として、「子どものスポーツ夢・未来 発掘事業」の予算を要求予定。 【概要】最新の測定機器を用いて子どもたちの運動能力(スポーツパフォーマンス)を測定し、データ分析の結果から発見される最も適したスポーツ(種目)との紐づけを行い、個々にフィードバックしながら、さらにその能力がステップアップする方法などのアドバイスを。事業をきっかけに、自分の可能性に気づき、スポ少等への加入者の増加を図るとともに、将来のトップアスリートに育つ可能性の高い人材を早期に発掘し、スポーツを愛する子どもたちに夢を持って取り組むすばらしさを伝えることを目的とする。

推進項目	計画(PPLAN)		行動(DO)	評価(CHECK)	改善(ACTION)
	令和2年度事業(予算額)	事業内容及び課題等	当該年度事業の現況	スポーツ推進審議委員の意見	令和3年度予算要求に向けて
(3) 18歳からのライフステージに応じたスポーツ活動の推進	▽子育て世代、働き世代、高齢者のスポーツ活動の充実 ▽酒田市体育協会 スポーツ教室の実施(体育協会事業)	・スポーツに取り組む習慣づくり ・意識付け、動機付け、会場の確保 ・スポーツ推進委員が各地区で実施している体力測定会をきっかけにスポーツ活動へ取り組んでもらう。 ・スポーツ推進委員を中心とした地域スポーツの充実。 ・備品等の整備	・平成28年度から調査を実施している「スポーツ行事への参加状況調べ(各地区体育振興会より報告)」 H28・・・36,184人 H29・・・41,714人 H30・・・47,051人 R01・・・41,057人	・各競技協会、連盟に所属している団体や愛好会等の把握を必要とする。 ・高齢者のスポーツ実施傾向は高まっているが、子育て世代や働き世代にどのようにアプローチしていくか課題と思う。 ・成人のスポーツ実施率を向上させるための工夫が必要→総合型地域スポーツクラブの充実。 ・スポーツ推進委員、体振、スポ少指導者の協力、活用を。	・子育て世代や働き世代におけるスポーツの実施率の向上施策を引き続き検討していく。 ・その一つとして、総合型地域スポーツクラブの活動が充実するよう、情報共有を図る「情報交換会」を定期的に開催していく。 ・各地区体育振興会より報告を受けているスポーツ行事への参加人数は延べ人数であり、各競技ごとに年間のすべてのスポーツ大会・事業等に参加した人数を把握できれば良いが、なかなか難しい状況にあるので、あくまでも1つの指標として実施していく。
(4) 障がい者のスポーツ活動の推進	▽スポーツ推進委員会山形県大会(スポ推事業) ▽ホストタウン推進協議会による「ポッチャ」体験 ※対象:小学生	・障がい者スポーツの理解への取り組みをスポーツ推進委員会で実施。	・スポーツ推進委員による障がい者スポーツの研究予定。	・議論を進めながら、進めて行く必要がある。 ・小学校への体験期間が短かった。ポッチャ以外に体験できる種目はないのか。 ・事業等へのスポーツ推進委員の積極的な参加が望ましく、その活動に対する報酬増であればよいのでは。	・ホストタウン推進協議会(交流観光課)と連携を図りながら、スポーツ推進委員会で障がい者スポーツへの理解を深める取り組みを実施していく。 ・R3年度スポーツ推進委員会山形県大会は酒田市での開催予定。1つのプログラムとして、義足アスリートの講演及び義足体験会を実施予定。

## 【数値目標】 ※毎年、アンケート調査を実施

## スポーツ実施率

成人の週1回以上のスポーツ実施率 ⇒ 60% (R01: 48.8%)  
(H29: 31.0%)

同 週3回以上のスポーツ実施率 ⇒ 30% (R01: 22.7%)  
(H29: 14.4%)

子ども(小学生)のスポーツ実施率 ⇒ 85% (R01: 51.4%)  
(H30: 78.3%)

※1日60分、週420分以上

スポーツや運動が好きである子ども(小学生) ⇒ 85% (R01: 67.1%)  
(H30: 77.7%)

スポーツや運動が好きである子ども(中学生) ⇒ 75% (R01: 57.7%)  
(H30: 66.3%)